

木材ニューズレター

(財)日本木材総合情報センター

TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(20年10月分)

1. 調査実施期間 平成20年 9月20日 ~10月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

10月分の回答企業数は42社、回収率は87.5%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

$$\text{Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス)} = \{(\text{「増加」の評価を行った回答の割合}) \times 2 + (\text{「やや増加」の評価を行った回答の割合}) - (\text{「減少」の評価を行った回答の割合}) \times 2 - (\text{「やや減少」の評価を行った回答の割合})\} \div 2$$

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		20/10月	11月	12月
仕入動向	国産材	△ 19.4	△ 9.7	△ 18.3
	外材	△ 18.9	△ 13.5	△ 15.3
販売動向	国産材	△ 30.6	△ 17.7	△ 20.0
	外材	△ 25.0	△ 13.9	△ 15.7
在庫動向	国産材	△ 10.0	△ 5.0	△ 8.6
	外材	△ 8.8	△ 4.4	△ 1.5

仕入は、国産材、外材ともやや大きなマイナス幅で出入りし弱含み。販売は、国産材、外材ともやや大きなマイナス幅を多少縮めたが、依然厳しい状況。
在庫は、国産材が小さなマイナス幅で若干出入あるがほぼ横ばい。外材は小さなマイナス幅で適正化している。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	20/10月	11月	12月
スギ正角(グリーン)	△ 2.1	△ 2.1	2.2
スギ正角(KD)	8.0	2.0	0.0
ヒノキ正角	3.8	0.0	△ 2.0
ヒノキ土台角	7.7	1.9	△ 2.0
米ツガ正角(現地挽)	2.4	0.0	2.4
米ツガ防腐土台角	4.3	2.2	△ 2.3
米ツガ割物(現地挽)	4.3	0.0	2.2
米マツ平角	13.5	3.8	△ 2.0
北洋アカマツタルキ(現地挽)	48.0	36.0	22.9
ホワイトウッド集成管柱	15.2	6.5	0.0
レッドウッド集成平角	31.0	2.4	2.4
型枠合板(国産)	33.3	13.9	△ 2.8
型枠合板(輸入)	31.8	9.1	0.0
針葉樹合板	27.5	7.5	△ 5.3

スギ正角(グリーン、KD)マイナスから先行きプラス、ゼロと好調気配。ヒノキ正角、土台角とも小さなプラスから小さなマイナスで堅調。
米ツガ正角、防腐土台角、割物はともにプラスから小さなマイナスで安定し好調気配。
米マツ平角プラスから一気マイナスへ陰り先行き注目。
北洋アカマツタルキは一段大きなプラスを半減したが品薄から絶好調変わりない。
WW集成管柱、RW集成平角ともプラスを一気に縮めたが回復基調に変わりない。
合板は大きなプラス幅を一気にマイナス、ゼロと締め好調にやや揺るぎを感じる。

1. 荷動き		コメント
仕入 動向		米マツ一般材丸太では、米材輸出価格が9月積みも値上り。10月積みも値上げを提示している。カナダ材もアメリカマーケット低調の影響で出材は進まず、現地在庫は少なく、強気姿勢に変化はない。(東京:米材問屋) カナダからの入荷が激減しており、集荷に苦労している。(東京:米材問屋) 今後カナダからの仕入れは難しい局面になる(現地減産のため)。(東京:米材問屋) 普通に考えると下がるわけではないのですが……不安がよぎります。(東京:米材問屋) ロシアからの新材入荷が遅れているためアカマツ入荷は少ない。(東京:外材問屋) 産地価格は相変わらず高値で日本向けは少ない。産地の日本離れ加速。船の確保が難しい。(東京:南洋材問屋) 新材が出てくるので少し仕入れを増す。(東京:国産材問屋) 9,10月と荷が動く予想も、9月後半よりブレーキ?(東京:国産材問屋) 良材が少なく売れないながらも仕入れに苦労する。(東京:国産材問屋) スギ正角が市場から消えてしまった。原木の出が悪いのと並行し、プレカット工場からの注文が多いため。(東海:国産材問屋)
	販売 動向	比較的荷動きの良かった米マツカスケードタイプ丸太のメーカー消費が減少しており、問屋は為替動向も含め値上げのタイミングを完全に逸した。(東京:米材問屋) 受注はあるが即納要望が多く、期日に間に合わない。価格転嫁が進まなく採算が合わない。(東京:南洋材問屋) 適材不足は深刻。有れば売れる状態なのに。(東京:米材問屋) 見積り少ない。スポット頼り。(東京:外材問屋) 入荷は減っても仮需は起こらない(先行き不安、信用問題等)。(東京:米材問屋) 売れない売れないといっても秋は普通に売れることを願っている。(東京:米材問屋) 細かい注文材の引き合いはあるが、バンドルの荷動きは悪い。(東京:外材問屋) 乾燥プレーナー材の動きが良くなっている。(東京:国産材問屋) 信用不安にて販売萎縮。(東京:国産材問屋) 構造材役物は皆目売れず。細かい造作材の動き(それも加工共で)。(東京:国産材問屋) 秋需本番に入り細かいながら忙しくなってきたが、相変わらずその日暮らしである。(東京:問屋) 今月中はプレカットもいっぱいだが、来月からはあまり無い。アカマツ製品が上がり過ぎて手が出せなくなった。(東海:外材問屋) 現状需要減少の要因は数々あれど拡大の要素は全く見当たらない。新策を考えていても現在の経済状態では落ち着くまで見送るのが普通の感覚である。(東京:仲買小売) 来年の話はいくつも決まったが、今年の話は全くありません。ピタッと仕事が止まりました。(東京:仲買小売) 塗装等、補修リフォームは多いが材料を使用する大規模リフォームは減少してきた。これから当分の間、この状態が悪くなりながら続くと思われる。(東京:仲買小売) 例年だとこの時期が最も忙しくなるが、それほど忙しくない。今年は波が違いすぎる。(東海:仲買小売)
在庫 動向	カスケードタイプ米マツ丸太の問屋在庫は減少せず、メーカーの今後の消費も見えない状況で、本船入荷も1ヶ月遅らせた。(東京:米材問屋) 産地の日本離れと船不足から入荷量減少し、在庫も減少。(東京:南洋材問屋) 買いたい材は買える状況になっている。思惑で在庫を増やす必要はない。(東京:米材問屋) 今月末の入荷まで在庫を食いつなぐしか方法がない。(東京:米材問屋) 在庫手当空振り。(東京:国産材問屋) 値上げでも見通しなくては当用買い。(東京:仲買) 在庫は増やさない。(東京:集成材問屋)	
2. 価格動向		
スギ正角	全般の動きは良くない。アカマツがないため、スギ小割の動きが良い。(東京:問屋) コスト高背景にスギKD材強含み。(東京:問屋)	
ヒノキ正角	丸太価格高止まり。出材伸びず。(東京:問屋)	
土台角	品不足。2,000~3,000/m3値上げ。(東海:問屋)	
米ツガ	注入土台のみ11月より上がる可能性あり。他は総て据置保合い。(東京:問屋)	
米マツ平角	無風。(東京:問屋)	
北洋アカマツ タルキ	仕入れが難しく、そろそろ諦め時かも。(東海:問屋) 材不足で上昇か。(東京:仲買小売) 希望のメーカー・等級の品がすぐ入荷する状況ではないので、この品目のみ在庫は多目である。(東京:仲買小売) 先月同様、価格上昇と品不足のため手当てが難しい。(東京:仲買小売)	
WW・RW 集成材	値上がりしそうだったが、あまり値上がりしない。(東京:問屋) 需要盛り上がりせず、上げ切れないと思う。(東京:問屋)	
合板	需要が減れば価格は下げざるを得ないのか。(東京:仲買)	